

# シャントアセスメントのスキルアップを目指して

## ～チェックシートによるトレーニングの効果～

透析室 ○城頼子 川津晶子

中倉智恵美 富永信世 井口恵美子

はじめに

シャントは個々の患者で血管の走行、性質が異なる為、患者のシャント情報を十分に把握するシャントアセスメント力が必要となる。そこで、看護師がシャントをアセスメントするトレーニングを行なった。又、医師を交え個々の患者のシャントについて学習会を開き情報を共有した。この事により、スタッフのアセスメント力に変化がみられ今後の方向性が示唆されたので報告する。

### I 研究目的

患者のシャント部に毎回さわり、シャントアセスメントをする事、又、学習会により患者のシャントについて情報を共有する事でスタッフのアセスメント力の向上を図る。

### II 研究方法

1 研究期間平成 20 年 1 月～平成 20 年 7 月

2 対象 透析室看護師 11 名(うち部署経験 4～8 年目 7 名、1～3 年目 4 名)

3 方法

1) 毎回の透析開始前にチェックシートを使用しアセスメント(血管の位置、血管の深さ・太さ、血管壁の厚さ、内腔の広さ、血流の強さ、皮下組織の状態、血管の可動性)を行った。

2) 医師により患者個々のシャントをデッサンしたものを使用し、学習会を開いた。

3) 学習会前後にテストを行った。

4) 研究開始前後に自記式アンケート調査を行った。

4 データ分析

1) 学習会前後でのテスト結果を単純集計し、正解率を全体と部署経験年数の変化で比較した。

2) 研究開始前後のアンケート調査によりアセスメント力の変化を比較した。

5 倫理的配慮

対象看護師に対し、研究目的及び方法を説明し、紙面上で同意を得た。

### III 結果

1 テスト実施前後の結果

1) 合計正解率では、スタッフ全員向上した。

2) 問 1 のデッサン正解率では、1～3 年目に変化はなく、4～8 年目と全体が向上した。

3) 問 2 の正解率では、1～3 年目に変化がないか、又は、向上、4～8 年目と全体で共に変化がないか、又は、低下した。

2 毎回のチェックシートによるトレーニングにて、「学習会後アセスメントできるようになった」と殆どのスタッフが実感した。又、アンケート結果でも、以前よりも穿刺に対するストレスが多少軽減できていた。

### IV 考察

全体の合計正解率、1～3 年目と 4～8 年目の経験年数別合計正解率では共に向上した。テスト問題 1 (デッサン) の学習会前後の全体と 4～8 年目の合計正解率は共に向上した。内田氏は、「まず、血管の解剖を知り、血管がどのように走行しているかを知ることで、穿刺の上達につながる」と述べている。デッサンによるイメージトレーニングは、視覚より理解できた事でシャントの走行や穿刺部位をアセスメントする事に効果的であった。項目別にみた学習会前後の正解率では、変化がないか、又は、低下し、1～3 年目では全項目変化がないか、又は、向上した。今回行った学習会や毎回さわるチェックシートによるトレーニングは、血管の状態を手先の感覚で感じ取れ、アセスメント力の向上に効果的であった。アンケート結果でも、アセスメント力を身に付けていく事によりストレスも多少軽減できている事が分かった。「アセスメント力が向上した」と殆どの看護師が実感したように、医師からの情報を共有する計画的な学習会や毎回さわるチェックシートによるトレーニングは、アセスメントする事の重要性をスタッフに意識づける事ができ、更なるスタッフ個人の穿刺技術の向上を図る為にも重要であると示唆された。

### V 結論

1 チェックシートによるトレーニングでは、7 項目中、血管壁の厚さ、皮下組織の状態、血管の可動性の 3 項目においてアセスメント力が向上していた。

2 デッサンによるイメージトレーニングでは、シャントの走行や穿刺部位をアセスメントするのに効果があった。